

地球温暖化対策

全社で省エネルギー活動への取り組みを強化しています。エネルギー使用量をCO₂発生量換算で、2008年度～2012年度の平均値を1990年度レベルに抑制するべく、様々な角度から検討しています。

■ 省エネルギーの取り組みを強化しました

フジヤマ工場の取り組み

フジヤマ工場では、エネルギーを削減するためのエネルギー管理規定を定め、またそれに基づきエネルギー削減管理を行っています。

2009年度の対策活動として、前年から引き続き電気エネルギー使用量の削減、不要時における照明灯の消灯及び空調機の停止、灯油使用量の削減などに取り組みました。

特に、主なエネルギー削減の実施項目としてボイラー運転の見直しを行いました。また計画通り、第6工場（固形剤製剤・包装工場）空調システムについて、夜間・休日時の運転方法を見直し、エネルギー削減を行いました。

これら活動と並行し、2009年11月からは新製品の製造が始まっております。これには、2005年度より遊休設備となっていた第5工場（注射剤製造棟）を改修し、錠剤の製剤・包装棟として稼働させています。その為、工場全体のエネルギー使用量としては、電力量では前年より2.5%増加、ボイラー燃料である灯油では3.1%、増加となりました。

2010年度からは吸収式冷凍機の冷却水ポンプ・冷水ポンプの運転方法を見直すことにより、エネルギー削減活動を継続していきます。

城東工場の取り組み

2009年度城東工場はガス使用量の削減（CO₂の削減）電気エネルギーの削減、電気不要時の消灯及び空調機停止の徹底などに取り組みました。主なエネルギー削減の取り組みとして、ガス使用量削減のために、蒸気関係設備の改善で高効率のボイラ設置、及びガスヒートポンプ設定温度・運転時間の適正化など使用量の削減に取り組み、電気エネルギーでは省エネ蛍光灯器具へ変更、空調用電力削減装置の設置・運転方法の見直しを行いました。

2010年度の活動計画としては、引き続きガス使用量の削減、電気エネルギーの削減、電気不要時の消灯及び空調機運転の見直しなど又、新規設備に関してはデータ取りを行い、数値目標を掲げ、エネルギー削減達成に向け取り組んでまい

ります。

水無瀬研究所の取り組み

水無瀬研究所では、2009年度エネルギー使用量を前年比1%削減目標として取り組みました。

空調の運転時間の見直しや管理標準に基づいた徹底した設備機器の保守点検を行い、中長期計画に基づき老朽化したエアコンや、変圧器の更新を行いました。2008年度比0.5%の増加となりました。

2010年度は、老朽化した空冷チラーの更新時に高効率タイプを導入するなど対前年比1%削減を目標にエネルギー削減に取り組んでまいります。

福井研究所の取り組み

福井研究所では2009年度エネルギー使用量を対前年比1%削減を目標にエネルギー削減に取り組みました。

管理標準に基づいた管理を行うと共に、空調の運転時間の見直しや老朽化したエアコンの更新、高効率モーターへの更新を行った結果、エネルギー使用量2008年度比2.0%の削減となりました。

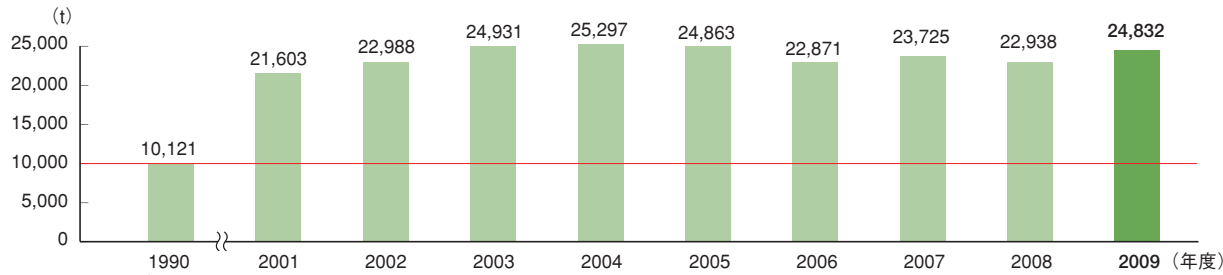
2010年度は老朽化した冷凍機や変圧器の更新時に高効率タイプ設備の導入等を行い、対前年度比1%削減を目標にエネルギー削減に取り組んでまいります。

筑波研究所の取り組み

筑波研究所は深夜電力を利用した氷蓄熱式空調熱源設備や、全熱交換器、インバータ採用の空調設備、インバータ照明器具等の環境に配慮した設備を採用しており、これらを確実に点検整備を実施することにより高効率を維持しています。

2006年4月より「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（省エネ法）が改正され第2種エネルギー指定事業場となり管理標準に基づいた各種エネルギー消費設備の管理を行っています。エネルギー使用量対2008年度比2.7%削減となりました。

■CO₂排出量



※CO₂排出量のデータ集計サイト:フジヤマ工場/城東工場/水無瀬研究所/福井研究所(1985年安全性研究所、1994年合成研究所竣工)/筑波研究所(2003年竣工)
 ※2007年度より製薬協自主行動計画に準じた計算方法を使用しております。

2010年度も引き続き対前年比1%削減を目標に管理標準に基づいた管理を行うとともに空調スケジュールの見直し等適宜行いながらエネルギー削減に取り組んでまいります。

■本社の取り組み

本社ビルでは2003年9月の開設当初から環境配慮、省エネルギーに取り組んできました。免震による建物の長寿命化、高効率水蓄熱による電力平準化、その他別記のような環境負荷低減・省エネルギーへの取り組みを行っています。

本社ビルの空調熱源として水蓄熱式空調熱源を採用しています。昼間に使う空調エネルギーを夜間電力を利用して冷水として蓄えておくことで電力の平準化に寄与します。夜間電力は発電所における化石燃料の使用率が低いため二酸化炭素排出量が小さく地球環境にも優しいエネルギーです。実績検証の結果、夏期においては中央熱源の蓄熱移行率が90%という高いレベルで推移しており有効性を確認しました。また、夜間蓄熱運転時のシステムCOPが昼間に比べて高くなっており冷房時定格COP(2.44)を上回っており、夜間電力の利用と合わせて一次エネルギー削減へ寄与しているものと評価しています。

■BEMS※ネットワークの強化

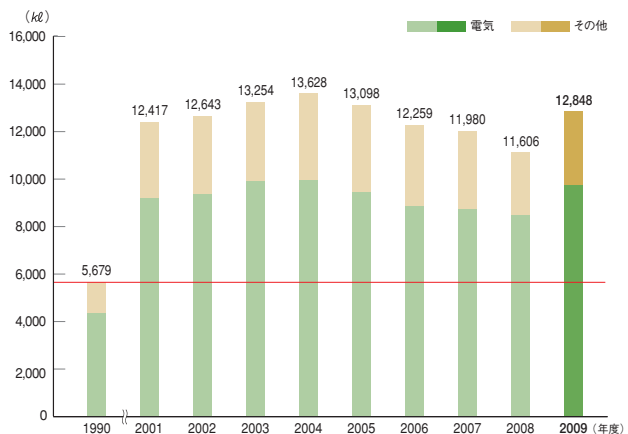
本社ビルの高効率エネルギーシステムであるBEMSはNEDOの2002年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業として採択されました。環境配慮に寄与する水蓄熱システム等の各種システムをBEMSネットワークにより統合し個々の省エネルギー機能を最適な状態で運用し続けるための環境を整えています。

■本店・本社電気使用量(万kWh)

2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
251	237	245	257	255

※BEMS(Building Energy Management System):
 業務用ビルなどにおいて、室内環境とエネルギー使用状況を把握し、室内環境に応じた機器・設備の運転管理を行うことでエネルギー消費量の削減を図る、エネルギーマネジメントシステムのことで。

■エネルギー消費の推移(原油換算)



※エネルギー消費のデータ集計サイト:
 フジヤマ工場/城東工場/水無瀬研究所/福井研究所(1985年安全性研究所、1994年合成研究所竣工)/筑波研究所(2003年竣工)
 ※2007年度より製薬協自主行動計画に準じた計算方法を使用しております。